私の仕えるお方は
良家の御令嬢で
いつも見惚れてしまう
大人びた雰囲気のの
美しいお方だ・・・
ねぇ
あなたに
お願いがあるの
はい！
何でも
お申し付けください
だけどそんな
お嬢様には一つ
困ったところがある
私のこと
縛って欲しい
・・・
へ・・・？
それは・・・

こうしていけない
ご命令を
されるところ・・・
うぅ・・・
よろしいのですか？
キュっ
うん
好きな人にして
もらうと嬉しいんだって
だから試して
みたかったの
なんだか
ドキ ドキ・・・
しかしご命令とはいえ
このようなことを・・・
あられもない姿の
お嬢様・・・
ごくん・・・
すごくドキドキする・・・
ね
どうしたの
何もしてくれないの？
ドクン
すごい
背徳感・・・
ドクン
ねぇ
！
なんだか変な気分に
なってしまいます

早く・・・
す少しだけ
ですからね？
ん・・・
ちゅ
そんなお姿で
誘惑されると
ね
もっと
ギュっ
あ・・・
あなたの好きにして
いいんだよ？
いけないと
分かっていても
昂る感情を
抑えられなくなってしまう

このお嬢様を独占しているような感覚が・・・
んん・・
お嬢様もうしわけありません
色々抑えられなさそうです・・・・！
ドキドキ・・
すごく幸せでクセになってしまいそうです・・・

ん・・・
お嬢様・・・
ぴくっ
あっ
あぁ・・・っ
ちゅ・・・
もう止められないです・・・
んぁ・・・
もっとぉ・・・